

Economic Indicators

発表日: 2024年11月8日(金)

景気動向指数(2024年9月)

～10月に基調判断上方修正の可能性はあるも、先行き不透明感は強いまま～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

2ヵ月ぶりの上昇も、反動の面が大きい

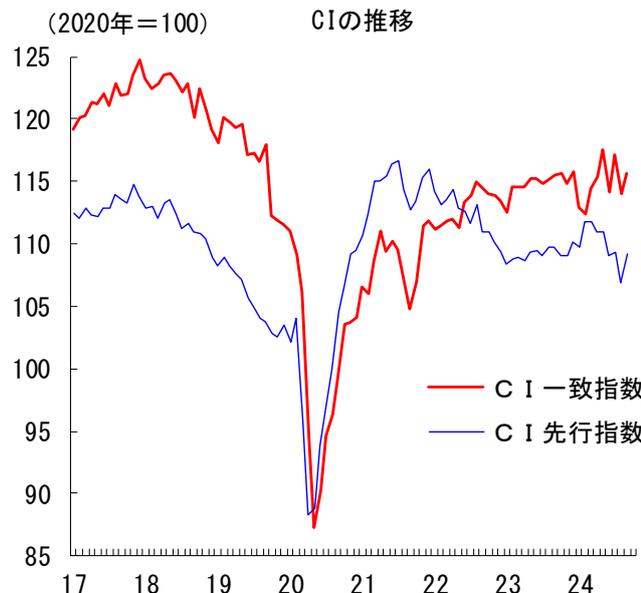
内閣府から公表された2024年9月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+1.7ポイントの上昇となった。前月差プラスではあるが、台風に伴う工場稼働の停止で8月分が▲3.2ポイントと大きく下振れていたことの反動が生じた面が大きい。C I一致指数を7-9月期平均で見れば4-6月期を▲0.1ポイント下回っており、均してみれば一進一退の動きが続いていると判断される。なお、9月の内訳では、生産財出荷指数や耐久消費財出荷指数、輸出数量指数など輸出・生産関連系列が押し上げ要因となっている。

基調判断は「下げ止まり」で据え置き

C I一致指数の基調判断は「下げ止まり」で据え置かれた。9月のC I一致指数の7ヶ月後方移動平均前月差は+0.47と3か月連続のプラスだが、「上方への局面変化」への上方修正基準は満たさなかった。

先行きについても不透明感は強い。10月の製造工業生産予測指数は前月比+8.3%の大幅増産が見込まれているが、生産用機械工業の生産用機械の極端な伸び(前月比+40.5%)によって押し上げられている面も大きく、実現性には疑問符が付く。仮に何らかの特殊要因により実際に生産が大幅に増えたとしても、11月の反動減は大きくなるだろう。また、海外経済の停滞が続くことが予想されるなか輸出の増加に多くは期待できない状況であるほか、これまで極めて好調だった電子部品・デバイスでペースダウンの兆候がみられるなど、先行きの生産動向には不透明感が強い。

仮に10月に明確な増産となれば、C I一致指数の基調判断は「上方への局面変化」に上方修正される可能性が高い。ただ、その場合でも、前述のとおり11月にはそれなりの反動減が予想され、C I一致指数がそのまますんなり回復軌道に乗ると見るのは楽観的過ぎるだろう。当面、方向感に欠ける動きが続くことが予想される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

